



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 MRKホールディングス株式会社

コード番号 9980 URL <https://www.mrkholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 真二

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-7655-5000

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	13,550	3.4	169	△47.9	358	△26.8	148	△35.2
2021年3月期第3四半期	13,109	△4.5	325	△20.7	489	△10.4	228	△31.7

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 216百万円 (△42.9%) 2021年3月期第3四半期 379百万円 (3.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	1.46	-
2021年3月期第3四半期	2.26	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	16,883	13,478	79.8
2021年3月期	18,013	13,363	74.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 13,478百万円 2021年3月期 13,363百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	0.00	-	1.00	1.00
2022年3月期	-	0.00	-	-	-
2022年3月期（予想）	-	-	-	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,500	6.4	730	19.3	670	1.8	340	179.1	3.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	101,295,071株	2021年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	230株	2021年3月期	230株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	101,294,841株	2021年3月期3Q	101,294,841株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう美と健康に関する多彩な商品・サービスを提供する『美の総合総社』の実現に向け、補整下着の販売を中心に、美容コスメや健康関連商品、マタニティ及びベビー関連商品、婚礼・宴会関連事業ならびに美容関連事業など、商品・サービスの拡充を推進しております。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動への制限が徐々に緩和されたものの、新たな変異株の出現などから、個人消費の持ち直しの動きは依然として不透明な状況が継続いたしました。

このような状況の中、当社グループでは従業員への日々の体温チェックやマスクの着用、除菌や清掃など、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するとともに、PCR検査や抗原検査を適宜実施した他、RIZAPグループ各社と連携して、社員及び家族、取引先、お客様を対象とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施するなど、お客様及び従業員へ安心・安全な空間の提供に努めてまいりました。

婦人下着及びその関連事業において、主力の補整下着で限定カラー商品が好評を得たことに加え、オリジナルサプリメントの新規販売ならびに、定期購入が伸長するなど、売上は順調に推移し、前年同期に比べ増収となりました。

一方、利益面においては、婚礼・宴会関連事業において、2021年9月末まで継続した新型コロナウイルス感染症緊急事態の終了以降、持ち直しの兆しを見せたものの、新たな変異株の出現などもあり、新型コロナウイルス感染症の再拡大への懸念から、挙式の延期が続くなど依然として収益は低迷いたしました。

また、前年同期においては新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の影響により、休業時の人件費や家賃、減価償却費等を特別損失として計上いたしました。当期においては人件費等を通常通り販管費として計上したこと、さらにコロナ禍における経営基盤強化を図るため、RIZAPグループ株式会社及び同社グループ会社との連携強化に向けた経営支援料が増加したことなどにより、販管費が前年同期に比べ増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高135億50百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益1億69百万円（前年同期比47.9%減）、経常利益3億58百万円（前年同期比26.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億48百万円（前年同期比35.2%減）となりました。

当社グループにおけるセグメントごとの経営成績は次のとおりです。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美や健康に関連する商品の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、日々の体温チェック、マスクの着用及び手指消毒の徹底ならびに、店舗設備における除菌や清掃の徹底等、引き続き安心・安全な店舗環境の提供に注力いたしました。

さらに、商品展開においては、補整下着デコルテ リュミエスシリーズの限定カラー『chadal gray（シャダルグレー）』を販売し、同商品が好評を得るとともに、オリジナルサプリメントの新規販売及び定期購入が伸長するなど、売上は順調に推移し、当第3四半期連結累計期間において増収を達成いたしました。

また、利益面においても、前述した前年同期の特殊要因（休業時の販管費の一部を特別損失に計上）による影響を除いた場合、実質増益となりました。

以上の結果、売上高は119億74百万円（前年同期比4.9%増）、セグメント利益は4億8百万円（前年同期比13.1%減）となりました。

[マタニティ及びベビー関連事業]

マタニティ及びベビー関連事業においては、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、コロナ禍で出生数が減少するなど、当上半期において、売上・利益ともに伸び悩むなど厳しい経営環境のもと推移いたしました。

一方、当上半期は、売上・利益ともに低迷したものの、顧客ニーズを捉えた商品ラインアップの拡充を強化するとともに、定期的にご購入いただける商品・サービスの開発、EC強化を継続して推進いたしました結果、当第3四半期（2021年10月～2021年12月）には3ヶ月連続で黒字化を実現するなど、収益改善に向けて着実に進捗いたしました。

以上の結果、売上高は9億95百万円（前年同期比13.0%減）、セグメント損失は56百万円（前年同期は29百万円のセグメント損失）となりました。

[婚礼・宴会関連事業]

婚礼・宴会関連事業においては、結婚式場の運営やカフェ・レストランなどの飲食事業の運営が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言の期間が2021年9月末まで長引いたこと、同緊急事態終了後に回復の兆しが見えたものの、昨年末より新たな感染拡大懸念が生じたことから、依然として厳しい経営環境のもと、計画を下回って推移いたしました。

このような環境下、感染防止対策に万全を期するとともに、Trattoria Matrimonio（トラットリア マトリモニーオ）で人気メニューのパスタやスイーツのお取り寄せができるオンラインショップの開設や、愛知県小牧市のふるさと納税返礼品にBRICK CAFE（ブリックカフェ）特製のカレーやスイーツ等が採用されるなど、新たな販路の拡大に注力いたしました。

一方、利益面においては、前年同期に行った新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休業を行った期間の人件費や家賃、減価償却費等を特別損失に計上していたことにより、前年同期に比べ販管費が増加いたしました。

以上の結果、売上高は1億83百万円（前年同期比81.5%増）、セグメント損失は1億65百万円（前年同期は1億24百万円のセグメント損失）となりました。

[その他]

その他においては、美容関連事業などが主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、新たな変異株の出現など、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、リピート顧客による底堅さと美容商材の安定的な販売により、売上・利益ともにゆるやかな回復基調で推移いたしました。

一方、前年同期には、2020年10月をもってサービスを終了した高級バッグのシェアリング事業による売上と、バッグの売却による利益を計上していることから前年同期に比べ減収減益となりました。

以上の結果、売上高は4億48百万円（前年同期比7.9%減）、セグメント損失は15百万円（前年同期は9百万円のセグメント利益）となりました。

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は112億64百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億45百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は56億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ85百万円減少いたしました。これは主に、無形固定資産の増加及び繰延税金資産の減少の結果によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は28億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億7百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金の減少、賞与引当金の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は5億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円減少いたしました。これは主に、長期リース債務の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は134億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億14百万円増加いたしました。これは主に、退職給付に係る調整累計額の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加の結果によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想については、2021年5月14日の「2021年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,279,592	5,281,546
売掛金	2,424,532	2,553,929
商品	1,443,096	1,470,856
原材料及び貯蔵品	262,395	246,895
その他	958,184	1,776,958
貸倒引当金	△58,240	△66,162
流動資産合計	12,309,561	11,264,024
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,102,456	2,115,429
その他(純額)	1,632,703	1,601,062
有形固定資産合計	3,735,159	3,716,491
無形固定資産		
	432,723	455,163
投資その他の資産		
その他	1,562,898	1,529,857
貸倒引当金	△26,690	△82,468
投資その他の資産合計	1,536,208	1,447,388
固定資産合計	5,704,090	5,619,044
資産合計	18,013,652	16,883,068
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,013,930	1,070,716
短期借入金	650,000	100,000
未払法人税等	209,192	51,305
賞与引当金	225,158	59,755
返品調整引当金	7,000	—
ポイント引当金	144,000	71,000
株主優待引当金	263,200	108,970
資産除去債務	27,749	18,054
その他	1,483,062	1,336,285
流動負債合計	4,023,295	2,816,087
固定負債		
退職給付に係る負債	7,381	5,521
資産除去債務	506,228	494,427
その他	112,840	88,976
固定負債合計	626,450	588,924
負債合計	4,649,745	3,405,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	367,961	419,904
自己株式	△53	△53
株主資本合計	13,333,246	13,385,189
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,382	—
退職給付に係る調整累計額	24,277	92,866
その他の包括利益累計額合計	30,660	92,866
純資産合計	13,363,907	13,478,055
負債純資産合計	18,013,652	16,883,068

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	13,109,353	13,550,621
売上原価	3,107,685	3,219,465
売上総利益	10,001,667	10,331,155
返品調整引当金戻入額	11,000	—
返品調整引当金繰入額	6,000	—
差引売上総利益	10,006,667	10,331,155
販売費及び一般管理費	9,680,963	10,161,390
営業利益	325,704	169,765
営業外収益		
受取利息	3,789	6,574
受取手数料	101,650	93,430
株主優待引当金戻入額	99,283	80,169
その他	11,771	15,307
営業外収益合計	216,494	195,482
営業外費用		
支払利息	4,543	1,460
債権売却損	43,563	—
貸倒引当金繰入額	△26	2,064
租税公課	2,366	1,660
その他	2,086	1,715
営業外費用合計	52,533	6,901
経常利益	489,665	358,347
特別利益		
固定資産売却益	124	—
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	46,701	16,739
特別利益合計	46,826	16,739
特別損失		
固定資産除却損	7,465	4,411
減損損失	1,060	4,480
新型コロナウイルス感染症による損失	115,168	3,264
その他	6,642	3,641
特別損失合計	130,337	15,797
税金等調整前四半期純利益	406,154	359,289
法人税、住民税及び事業税	46,560	78,482
法人税等調整額	130,932	132,745
法人税等合計	177,492	211,227
四半期純利益	228,661	148,061
親会社株主に帰属する四半期純利益	228,661	148,061

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	228,661	148,061
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	62	—
退職給付に係る調整額	150,805	68,588
その他の包括利益合計	150,868	68,588
四半期包括利益	379,530	216,650
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	379,530	216,650
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であった瑪露珂爾(上海)国際貿易有限公司は、重要性が低下したため、連結の範囲から除外し、非連結子会社としております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ19,485千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は17,343千円増加しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,416,824	1,125,932	89,945	12,632,702	476,650	13,109,353
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,350	18,866	11,186	31,402	10,194	41,596
計	11,418,174	1,144,798	101,132	12,664,105	486,844	13,150,949
セグメント利益 又は損失(△)	469,662	△29,445	△124,694	315,521	9,712	325,234

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	—	13,109,353
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△41,596	—
計	△41,596	13,109,353
セグメント利益 又は損失(△)	469	325,704

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、集客支援、シェアリングサービス、美容関連事業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額469千円には、セグメント間取引消去△155千円、減価償却の調整額625千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,960,281	990,506	151,872	13,102,659	447,962	13,550,621
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,483	5,270	31,684	51,438	340	51,778
計	11,974,764	995,776	183,556	13,154,097	448,302	13,602,399
セグメント利益 又は損失(△)	408,017	△56,934	△165,991	185,091	△15,907	169,184

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	—	13,550,621
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△51,778	—
計	△51,778	13,550,621
セグメント利益 又は損失(△)	581	169,765

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、美容関連事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額581千円には、減価償却の調整額が含まれております。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

(会計方針の変更)に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の婦人下着及びその関連事業の売上高は19,485千円増加、セグメント利益は19,485千円増加しております。

(重要な後発事象)

(連結子会社間の吸収合併)

当社の連結子会社であるマルコ株式会社は、2022年1月27日開催の取締役会において、マルコ株式会社を存続会社、同じく当社の連結子会社である株式会社エンジェリーベを消滅会社とする吸収合併を行うことを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

① 結合企業

名称 マルコ株式会社
事業の内容 婦人服下着の販売

② 被結合企業

名称 株式会社エンジェリーベ
事業の内容 マタニティ及びベビー服の販売

(2) 企業結合日

2022年3月1日 (予定)

(3) 企業結合の法的形式

マルコ株式会社を存続会社、株式会社エンジェリーベを消滅会社とする吸収合併

(4) 企業結合後の名称

マルコ株式会社

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。